

植物園紹介

「蓼科笹類植物園」の紹介

大泉 高明*

Introduction of the Tateshina Bamboograss Garden

Takaaki Oizumi*

はじめに

株式会社大和生物研究所は昭和43年の創業より現在に至るまで、クマザサの葉を原料とした一般用医薬品「ササヘルス」の製造・販売を行う傍ら、原料の笹に対する研究に力を注いでいる。平成18年より、同社は長野県茅野市上原山林間工業公園内の同社蓼科工場の敷地内に、「一般財団法人蓼科笹類植物園（約6000坪）」の建設を進めてきた。平成20年10月に第一期工事が完了し、現在も第二期工事が進捗中。園内には、国内外の笹類を中心に約120種を植栽（笹類の種数では世界最大規模）、今後も増やしていく予定である。現在は限定公開のみだが、今後一般公開も予定している。

基本コンセプト

植物園の基本コンセプトは「笹を通して医・薬・食・農・美・住を統合し、クリーンで、健康で、美しい生活スタイル、文化を発信する“笹文化圏”をつくる」こと。正門から「数寄屋庭園エリア（約2000坪）」、「実験圃場エリア（数寄屋庭園エリア内、約250坪）」、「植物園エリア（約4000坪）」と順に配置している。

入り口手前からクマザサを植え、植物園の塀はマダケ材を使用した「木賊塀」（とくさべい）を廻らせることで、入る前から日本庭園の雰囲気

漂い、植物園への期待が高まるような作りとした。

植物園エリア

当園は、竹笹類のコレクションでは東洋一の規模を誇る、静岡県の富士竹類植物園の全面的支援を受け、設計・施工している。蓼科笹類植物園は笹類を、富士竹類植物園は竹類を中心とした植物園として役割分担し、姉妹園として位置付けている。さらに当園は、地球温暖化の影響もあり、温暖な静岡では育成が厳しくなっている寒冷を好む種（笹類）を保存する役割も担っている。

現時点では約120種類の笹を植栽。日本原産の笹が多いが、海外の笹もコレクションしている。園内は、ササ属、アズマザサ属、メダケ属、オカメザサ属、インヨウチク属、ジャクチク属、スズザサ属、スズダケ属などをエリアを分けて植栽している。また、当園が保有している日本原産の笹のうち約3分の1は当園でしか保有されていない種である。さらに、日本植物学の父と称された牧野富太郎博士が発見し、夫人の名を命名したスエコザサを高知県立牧野植物園から寄贈を受け、保有している。

なお、珍しいとされる笹の開花だが、種が多いため毎年いくつかの種類が部分開花するのも見どころである。

数寄屋庭園エリア

伝統建築家の故安井清氏の設計のもと、竹笹類

* 個人会員 株式会社大和生物研究所、一般財団法人蓼科笹類植物園
Daiwa Biological Research Institute Co., Ltd. Tateshina Bamboograss Garden Inc. Foundation

を随所にとり入れ、また信州地方の石置き屋根もとり入れた数寄屋建築と数寄屋庭園が造られている。

正門を抜け園内に入ると、クロチク、モウソウチク、キンジョウギョクチク、ホテイチクとその亜種（キンメイ、ギンメイ、オウゴン）、サトチマキを植栽、外露地と内露地を分ける「梅見門」（ばいけんもん、中門）にはマダケによる竹垣が組まれている。

内露地は笹の庭園とすべく、真行草の延べ段とその周りは芝生のようなオロシマチクを植栽した庭で、洲浜を模したチゴザサの先には岬燈籠を配置し、水辺の広がりとして見立てている。

茶室「箸庵」（じゃくあん）では、卍型に椅子を設け、立礼（りゅうれい＝武士による腰掛式作法）の茶会を行うことができる。座る位置により、坪庭や植物園エリア等、東西南北の景色を楽しむように設計されていて、茶室の土壁にある下地窓には竹笹をふんだんに使用していることが見てとれる。

別棟の「お待合」（おまちあい）では、天然のままの四角い幹を持つ珍しいシホウチクや、杉板を削いだ「枋板」（へぎいた）を使用した「網代」（あじろ）、竹の天井などを見ることができる。建物の中央には竹笹に因んだ掛け軸を掛け、障子に竹の葉の影が映るといった趣向をこらし、竹笹との関連を自然に感じさせる造りとした。

実験圃場エリア

実験圃場では、医薬品や食品を製造した際に出

る副産物のクマザサ抽出残渣（ササソフト）を利用した土壌改良材や堆肥などの研究を行っており、ホウレンソウやトマト、セロリなどの生長を促進し、作物本来の美味しさをよみがえらせる効果が確認されている。

今後の展望

笹には医薬分野をはじめ、農業、畜産、衣料、食品などの分野においても、新規バイオビジネス創造の可能性がある。蓼科笹類植物園は単に笹類の標本植物園に留まらず、笹の可能性を21世紀の技術と知恵で引き出す“場”となることを期待している。現在は限定公開のみ、協会会員は事前に連絡いただければ見学が可能である。

要約

一般用医薬品「ササヘルス」の製造・販売を行う株式会社大和生物研究所は、平成18年より同社蓼科工場（長野県茅野市）の敷地内に、一般財団法人蓼科笹類植物園の建設を進めてきた。植物園は3つのエリアからなり、笹類を中心に約120種を植栽。「植物園エリア」は、静岡県富士竹類植物園の全面的支援を受け、設計・施工されている。「数寄屋庭園エリア」は、伝統建築家の故安井清氏の設計のもと、竹笹類を随所にとり入れた数寄屋建築と数寄屋庭園が造られている。「実験圃場エリア」では、クマザサ葉の抽出残渣の農業利用への可能性を検証する実験を行なっている。園内は現在も工事が進捗中で、今後一般公開も予定している。

SUMMARY : Daiwa Biological Research Institute Co., Ltd. has advanced construction of a Tateshina Bamboograss Garden Inc. Foundation in our establishment of Tateshina Plant since 2006. The botanical garden collects about 120 species with a focus on Sasa-bamboo and consists of three sections, “Botanical Garden Area” designed and implemented under favor of the full support of Fuji Bamboo Garden in Shizuoka Prefecture, “Sukiya Garden Area” made a architecture and garden of tea ceremony room abundant in bamboos designed by the late Kiyoshi Yasui, traditional architect, and “Experimental Plot Area” verified the possibility to agricultural use of the extraction residue of bamboo grass leaves, “Kumazasa”. We are still under construction and planning to open the botanical garden to the public in near future.



写真1. 植物園正門前。マダケ材を使用した木裁断



写真2. 梅見門。マダケによる竹垣



写真3. 数寄屋庭園エリアの「若庵（じゃくあん）」



写真4. 実験圃場エリア。クマザサ抽出残渣の利用



写真5. 植物園エリア



写真6. 植物園エリア